

大いちょう

令和6年8月30日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

2学期が始まります。

44日間（7月20日～9月1日）の長い夏休みが終わり、2学期が始まります。

今年の夏も、異常な暑さでしたね。台風や線状降水帯による被害が大きかった都道府県もありました。8月8日の日向灘を震源とする地震に関しては、南海トラフ地震との関連が発表され、防災意識を高めたご家庭も多くあったことと思います。各ご家庭で、万が一の備えをご準備いただき、お子さんとも「もしものとき、どのような行動をとるとよいのか」について、日頃から話し合いをしておいていただくと安心です。幼稚園でも各学年に応じて、防災意識を高めていきたいと思っています。

関東方面では、台風がお盆を直撃したことで帰省や旅行を阻まれた方もいらっしゃるかもしれません。それでも、花火大会や岐阜市科学館、メディアコスモスなどのイベントを含め、楽しい体験ができたのではないかと思います。8月24日のメディアコスモスでのイベントにご参加くださった方は、ありがとうございました。

子どもたちからお土産話が聞けることを楽しみにしております。



私は、夏休み中に『第71回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 北海道大会、第2回北海道国公立幼稚園・こども園長協議会 全道研究大会』に参加させていただき、大切なことを学ばせていただきました。基調講演では、特別支援教育に長く携わっておられる独立行政法人 国立特別支援教育研究所 インクルーシブ教育システム推進センターの上席総括研究員（兼）センター長でいらっしゃいます 久保山 茂樹 先生のお話を伺いました。演題は、『子ども一人ひとりの多様性を受けとめ尊重する保育の追求と発信』～「共生社会の担い手を育む」ことを目指して～です。以下、大切な内容のみ抜粋して、ご紹介いたします。

○子どもを肯定的にとらえる保育のまなざし

「うちの教室に、遊び直しが必要な生徒がたくさんいる」ということと、中学校の発達障害通級の先生から多く聞いた。つまり、幼児期に「自分からやってみよう」「やりたい」と思って遊んだ経験が少なく、遊び直しが必要と言われている。発達障害の特性から「他者との遊び」から撤退しかけている中学生に対し、「他者と遊ぶと楽しい」という自然な感情を引き出し、その楽しさを土台に望ましい『人間関係の形成』につながる諸々を再学習させる以下の3つのステップが大切である。

- ① 好きなこと・得意なことを話させ、傾聴する
- ② 心から笑える楽しい時間を仲間と共有する
- ③ 遊んだ後は、必ず振り返りの機会をもつ

また、幼稚園教育要領の第1章 総則 第1幼稚園教育の基本として、「幼児の生活経験がそれぞれに異なることなどを考慮して、幼児一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること」とある。幼稚園教育要領の前文には、「これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、(略)一人ひとりの幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識すると共に、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる」とあり、これは、暗唱したいくらいの名文である。また、これは小中学校、高等学校、特別支援学校も同様の表記がされている。

どんな子どもでも、好きなことや得意なことが必ずあり、それは、支援の必要な子どもにも先生にもあるはずである。子どもは、目を輝かせて徹底的に遊び込む先生のことが、大好きである。

「気になること」「できないこと」に隠れてしまっている「良さ」「得意分野」「その子が役に立つこと」「いま持っている力でできること」「魅力」等を見つけて、それを楽しむ支援が重要である。

インクルーシブな保育・教育とは、「子どもがお互いを理解し、尊重することができる保育・教育」「多様性が理解され、尊重される保育・教育」である。そのためには、保育者が「子ども一人ひとりに徹底的にこだわって、一人ひとりを大切に作る保育・教育を行い、子ども一人ひとりに肯定的な共感のまなざしを向ける保育・教育」を実施することである。その保育者の姿を周りの子どもたちは見て真似して育つ。その中で育った子どもが、多様性を受け入れることができる大人へと成長する。「できなさがあっても生きていける社会」を目指す。20年後の社会は、ゆっくりと進んでいく。「空気読んで」ではなく、伝えられる人が、「理解できるように伝える力」を身に付ける。

○共生社会の担い手を育むために

「平成24年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会報告の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ構築のための特別支援教育の推進(報告)」によると、「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であると述べている。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題であるとも記されている。

つまり、今まではどちらかという障害のある人が社会に合わせ、障害のある子どもが、園や学校に合わせてきたが、これからは、社会や園・学校が、多様な人々や子どもがいることを前提にどのように変わっていけるのかが問われている。変わり続ける社会こそが、共生社会であり、園・学校は、共生社会の担い手を育む場所となる。

そのために保育者が多様な価値観を持ち、それを子どもたちに伝えることが必要である。例えば、「早くできることは素晴らしい。でもゆっくり丁寧にできることも素晴らしい」「大きな声で話せることは大切、でも自分らしく話せることも素晴らしい、声が届きにくければ、聞き手側の姿勢を変えること(『静かにするとちゃんと聞こえるよ』など)ができるクラスも素敵」などである。

多数派が子どもを理解し(多様性を認め合う、得意・良さを知る、共感のまなざし)、保育の見直し(誰もが生活しやすく学びやすい環境づくり)をすることにより、どれだけ変われるかの挑戦が必要である。

○多様性を受けとめ尊重する保育を求めて

保育所・こども園・幼稚園がもつゆるやかさ(安心)、「これなら大丈夫」を基本に、時間の区切り、空間の区切り、先生との関係、カリキュラムの緩やかさを上げていく。その中で、「あの子と私」の安心できるつながりを作ることか

ら始めよう。「いま、持っている力で宝物を探そう」「となりに並んで、あなたを見ているよ」「できない自分もSOS出していいよ」というメッセージが必要である。また、「〇〇ちゃんと、周りの子」のつながりを作ることから始めよう。「〇〇ちゃんの理解者」そして、「共生社会の担い手」となるように育む。「保育者の姿が、子どもに映る・移る」「クラスの大切な『なかま』という時間」、例えば、クラスの様子を見ているだけでも参加していると捉えることが大切である。

私たちが目指す社会は「共生社会」である。それは、「一人ひとりが大切にされる社会」であり、「多様性が理解され、尊重される社会」である。そのために、「共生社会を実現する」「共生社会に担い手を育む」という方向性を明確に掲げながら、教育を実践することが、インクルーシブな保育・教育を実践することである。

全てが心に響く言葉でした。私は、特別支援教育に携わる期間も長かったので、丁寧に個別指導やペア指導、小集団指導を行っていたことを思い出しました。特別な配慮を必要とする子どもも、周りの子どもたちもすべてが「かけがえのない私」であることが大切です。乳幼児期に、「自分は受け入れられている」、「大切にされている」という感覚を味わうことが不可欠なのです。周りの子も受け入れられることや、「やりたい」という思いが実現することで、心が育ち、間接のこをを受け入れられるようになるのです。「自分のよさや可能性を認識する」という文言からわかるように、自己肯定感の高い子どもを育てていきたいものです。つまり、どちらか一方のお話ではないことが、大切になります。そのため、幼稚園では、一人ひとりの子どもの興味・関心を探りながら保育に生かし、学年に応じてそれが、周りの子どもにも広がり、深まるような環境構成や援助に心がけたいと考えております。



さて、3年目に入りました夏季休業中の預かり保育では、大きなけがや病気もなく無事に過ごせよかったです。日頃の保育とは異なり、少人数の異年齢集団でゆったりと過ごすことで、子どもたちが違った姿を見せてくれました。年長児は特に年少児に優しく接し、時に積極的に声をかけたり世話をしたり、リラックスした雰囲気により自分から積極的に話をする姿が増えたりなど、成長につながっていました。お弁当の準備や送迎などでは、お家の方にご協力いただきまして本当にありがとうございました。

2学期は1年間のうちでも「充実期」と言われます。「親子ふれあいフェスティバル（運動会）」を通して、発達の過程に合わせ体を動かすことの楽しさを味わいながら友達や教師、クラスの仲間と共に遊びを創り上げる経験を積んでほしいと思います。「勝つ・負ける」などの勝負ごとにも興味をもったり、関心があるゆえに負けることを受け入れられなかったりしてネガティブな感情をもつことも多くなると思います。それは子どもにとって大切な学びの場面になります。発達の過程に合わせて、教師に受け止めてもらう、友達に受け止めてもらう、仲間とどうしたらよいかを考え合うなど、気持ちを立て直す経験ができるよう、丁寧に対話的に関わっていきたくて考えています。

今年度は、「親子ふれあいフェスティバル（運動会）」の前に、「親子ふれあいフェスティバル（運動会）ウィーク」を設ける予定です。限られた時間にはなりますが、期間中ご都合のよいときに幼稚園にお越しいただき、運動会までの取り組みを参観したり、巻き込まれたり（笑）して楽しんでください。「親子ふれあいフェスティバル（運動会）」当日に、お子さんが、体調不良になったり、緊張したり、モヤモヤしたりして日頃の力を十分に発揮できない場合でも、普段のお子さんの様子を観ていただけるようにと考

えております。また、当日にはご覧いただけない競技も、日頃の保育の中では多く経験していきますので、そんな様子を参観していただければ楽しいかなと考えました。ただし、参観にお越しくくださった日に、すべての子どもが、色々な競技に参加しているとは限らないことをご理解ください。あくまでも、通常通り子どもが自己選択しながら進める保育を大切にしていきますので、よろしくお願いいたします。

詳細については、後日、通信が発信されますので、期間や時間などご確認のうえお越しく下さい。ワクワクしますね。お楽しみに！！

今後もしばらくは、熱中症などに十分気を付けて取り組んでいきたいと思っております。2学期も温かいご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



【9月の保育について】

【3歳児】

- 園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分でしようとする。
- 先生や友達と一緒に戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【4歳児】

- いろいろな運動遊びを通して、体を動かす心地よさを味わう。
- 先生や友だちと一緒に考えたり、試したりしながら遊ぶ。

【5歳児】

- いろいろな遊びに自ら挑戦し、思い切り体を動かす心地よさを味わう。
- 友だちと思いや考えを出し合いながら、遊びを進めたり創り出したりする。



お知らせとお願い

◆様々なお知らせやお願いについて

スマート連絡帳や紙ベースでのお便り等、様々なお知らせやお願いをお伝えしています。ご一読いただき、ご対応くださいますようお願いいたします。ご不明な点等ありましたら、お尋ねください。よろしくお願いいたします。

◆2学期からの教育活動について

◇今までと同様、欠席や遅刻、早退などについては、スマート連絡帳にて、8時10分まで（時間厳守）に、備考欄にその理由と共にご入力いただきますようよろしくお願いいたします。※新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに幼稚園までお知らせください。

◇引き続き、感染症等対策に留意し、手洗い、給食前など必要な場面での手指消毒、換気などを実施していきます。

◇上記に並行して熱中症対策に留意し、水分補給をしたり、熱中症警戒アラートに応じて戸外での活動を控えたりして対応していきます。

◇園児の制服については、熱中症対策の一環として、9月13日（金）まで「制服不要」とさせていただきます。17日（火）からは、夏制服・麦わら帽子での登降園となります。（※残暑が厳しい場合には、期間を変更することがあります。）

◆遠足について

2学期が始まって早々に子どもたちとも相談したいと考えておりますが、日程を含め行き先の変更等、申し訳ありませんが、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

年長児：10月25日（金） 予備日11月1日（金）

年少・年中児：10月30日（水） 予備日11月8日（金）

詳細については、後日通信等で発信させていただきますので、ご確認ください。

◆加納天満宮天神祭りの参加について

10月26日（土）に、加納天満宮の天神祭りが行われます。地域のお祭りとして、年長児が参加します。時間や内容等は、また後日お知らせいたします。

◆8月19日（月）から9月6日（金）までが、令和7年度新入園児の募集期間となります。このまま入園希望児が少ないと、一クラスになってしまうこともあります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。どうぞ、ご近所・お知り合いに対象のお子さんがいらっしゃいましたら、お声かけくださるとありがたいです。また、私たち教職員もPR活動に励んでおりますが、もし保護者の方で、ポスティングや紹介資料の配布などにご協力いただける方は、職員室までお声かけください。

より多くの方のご入園を心よりお待ちしております。